

シノリガモ *Histrionicus histrionicus* (Linnaeus)

【選定理由】

主に渥美半島の太平洋沿岸で越冬し、特に岩礁の多い海域を好んで生息するが、県内における生息数は少ない。外洋に面した岩礁のある環境は限られており、越冬期の生息場所は局地的である。

【形態】

全長 38～45cm、翼開長 63～69cm の小型の海ガモ。雄は、頭から上胸および背が青灰色で、嘴基部から目先・頭頂に至る三日月型の白色斑が目立ち、耳部に円形と縦線形の白色斑、胸と背に明瞭な白色帯があり、肩羽の後側頭と脇は赤栗色がある。雌は、全身が黒褐色で、目先の上下と耳部に白斑がある。尾は長めで先端が尖る。



愛知県田原市, 2012年12月24日, 鈴木恒則 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

冬期主に渥美半島の外海側に生息し、希に内湾でも見られる。

【国内の分布】

北海道および東北地方で繁殖し、北海道、本州中部以北および九州北部で越冬する。

【世界の分布】

シベリア東部、カムチャッカ、アラスカから北アメリカ西海岸北部と、北千島、グリーンランド南部、アイスランド、アメリカ東北部沿岸で繁殖し、ほぼ同じかやや南方の地域で越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

主な生息場所は外海に面した海岸で、岩礁のある環境を好む。通常は数羽から数十羽程度の小群で生息し、休息する場合も群れで岩礁の上にいることが多い。以前は内湾で数羽の小群が見られたこともあるが、通常は内湾で複数が観察されることは希で、内湾ではスズガモなどの群れの中や、群れの周辺に単独で見られることが普通である。また、渡りの季節に単独で内湾の奥へ移動する個体を観察したこともある。外洋では群れで岩礁周辺の水面に浮かびながら盛んに潜って採餌し、甲殻類、貝類、ウニなどを捕食するとされる。

【現在の生息状況／減少の要因】

田原市の高松一色や越戸、日出が生息地として知られている。国内では太平洋側の越冬地として愛知県がその南限近くにあたるため、本来愛知県ではそれ程個体数の多い種ではない。生息数は渥美半島の外海沿岸全体で 30 羽に満たない場合が多いが、時には 1 箇所でも 50 羽を超える群れが確認されることもある。確認例は少ないが、内湾で見られる場合は岩礁でなく、砂地の海岸で見られることもある。減少の要因として、愛知県は越冬分布の南限近くに位置することで温暖化などの影響が大きいことも考えられるが、渥美半島の外海側では岩礁部への人の立ち入りの影響も考えられる。

【保全上の留意点】

具体的な保全対策はないが、岩礁に依存して生息する生物の存在を周知することは大切である。

【特記事項】

田原市日出で拾得された個体を解剖し調査したところ、主にワレカラ（甲殻類）を数多く摂食していた（武田芳男、私信）。

【関連文献】

黒田長久, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.79. 世界文化社, 東京.

(高橋伸夫)